長野高校（普通科）シラバス

学校番号	３２１

令和２年度　芸術科（美術）

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「高校生の美術２」　（日本文教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・感じ取ったことから考える「絵画・彫刻」、目的や機能から考える「デザイン・工芸」、作品の意図、表現の工夫や効果を考える「鑑賞」の分野について学習します。
・一人ひとり、思いや見方、感じ方が違います。表現形式の特性や形体・色彩などについて着目して、自分なりの感じ方や見方、表現を深めていきましょう。違った見方を「鑑賞」で共有すると、また更に広がったり深まったりします。

2　学習の到達目標

美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	制作の様子 ワークシート 鑑賞活動やグループワークの様子	ワークシート アイデアスケッチ 制作途中の作品 作品	制作途中の作品 作品	ワークシート 発言内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	題材名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	美術はどこへ向かうのか	【鑑賞】【絵画・彫刻】 ・オリエンテーション 教科書等を鑑賞し、多様な表現形式について学ぶ。美術がもたらすイメージの広がりを感じ取り、美術の特性を理解する。	○			○	a:美術の多様な表現に関心を持ち、これからの学習に意欲を高めている。 d:美術作品などのよさや美しさを感じ取り、美術の働きや文化ついての理解を深めている。	学習活動の様子
	ユニットデザインを描こう	【デザイン】 ・ユニットデザイン 5㎝四方のユニットの中をデザインし、それを繰り返し反転させることで、新たな形を展開していく。水性絵の具で彩色する。	○	○	○		a：形や色彩などの働きを考えながら構想を練ったり、表現したりしようとしている。 b：画面構成やバランスを考え、創造的な表現を工夫している。 c：アクリル絵の具の特性を生かし、表現方法を工夫している。	制作の様子 制作途中の作品 作品 ワークシート
2学期	立体ユニットで自己のテーマを表現しよう	【立体デザイン】 6cm角、高さ1．5cmのスペースを15マス作り、その中にテーマに沿ってさまざまな素材を使って立体模型を作る。 作品鑑賞	○	○	○	○	a：美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。 b： 感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。 c： 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫している。 D：立体デザイン作品の表現の工夫などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	制作の様子 制作途中の作品 作品 ワークシート

3学期	油絵でイメージ画を描こう	【絵画】 ・アイデアスケッチ 自分の想像したイメージを効果的に表現するための画面構成を考える。 補色や色のアクセント、調和、バランスを考え、また油絵の具の特性を生かしながら色を付けていく。	○	○	○		a：美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法に関心を持ち、主体的に創造活動に取り組もうとする。 b：感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。 c：創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫している。	制作の様子 制作途中の作品 作品 ワークシート

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　b:発想や構想の能力
c:創造的な技能　d:鑑賞の能力

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。